

○九州ブロックにおける社会資本整備重点計画は、以下の4章にて構成。

第1章 九州ブロックの現状と主要課題

○九州ブロックの特徴

- ◆自然災害と豊かで美しい自然環境等を有する九州
- ◆アジアとの交流・連携で重要な拠点である九州
- ◆適度に分散する都市圏と離島・半島、中山間地域が広く分布する九州

○九州ブロックの近年の状況変化

- ◆大規模災害の顕著化と安全・安心な生活に対する関心の高まり
- ◆アジアと九州との交流拡大と広域的な連携による産業の展開
- ◆離島・半島、中山間地域をはじめとする地域の疲弊
- ◆加速する社会資本の老朽化と多様な活動主体の参画
- ◆将来における社会資本の品質確保に向けた担い手の確保・育成及び生産性の向上
- ◆九州の社会資本整備の歴史

第2章 九州ブロックの目指すべき将来の姿 と社会資本整備の基本戦略

九州圏広域地方計画における“将来像”及び“将来像の実現に向けた戦略”と整合を図りながら九州ブロックの将来像及び社会資本整備の基本戦略を策定

○九州ブロックの将来像

- ◆日本の成長センター『ゲートウェイ九州』
- ◆三層の重層的な圏域構造からなる『元気な九州』
- ◆巨大災害対策や環境調和を発展の原動力とする『美しく強い九州』

○九州ブロックの社会資本整備の基本戦略

- ◆アジアゲートウェイ機能の強化
- ◆九州の基幹産業や地域産業の活性化
- ◆九州の安全・安心の確保と自然環境・国土の保全
- ◆九州の活力を創出する交流・連携の促進
- ◆九州の圏域機能の向上と連携の強化

第3章 九州ブロックにおける 社会資本整備の重点目標

中長期的に目指す姿となる将来像を実現していくための重点目標について、社会資本整備重点計画（全国計画）を受けながら、九州ブロックとして社会資本の効果が最大限発揮されるような整備を実現するため、九州圏広域地方計画とも整合を図り、4つの重点目標を設定

また、重点目標毎に目標を達成するためのプロジェクト(全11)を設定し、プロジェクト毎に目指す姿や重点施策、達成状況を確認するために指標、主要な取組（具体事業）等を記載

第4章 計画を推進するための方策

各プロジェクトの円滑な実施に向けた九州ブロックとしての方策や体制づくりについて記載

九州ブロックにおける社会資本整備重点計画の構成(案)

現状と主要課題 【第1章】

- ・適度に分散する都市圏と離島・半島、中山間地域が広く分布する九州ブロックは、豊かな自然環境を有するとともに自然災害が頻発、巨大地震発生も懸念されている。
- ・災害、中山間地域等に対する安全・安心な生活に対する関心が高まっているとともに、アジアのゲートウェイとして広域連携による産業展開を推進している。

九州ブロックの将来像と 社会資本整備の基本戦略 【第2章】

～九州ブロックの将来像～

(1) 日本の成長センター
「ゲートウェイ九州」

(2) 三層の重層的な圏域構造
からなる「元気な九州」

(3) 巨大災害対策や環境調和を
発展の原動力とする
「美しく強い九州」

～社会資本整備の基本戦略～

(1) アジアゲートウェイ機能の強化

(2) 九州の活力を創出する
交流・連携の促進

(3) 九州の基幹産業や
地域産業の活性化

(4) 九州の圏域機能の向上と
連携の強化

(5) 九州の安全・安心の確保と
自然環境・国土の保全

社会資本整備の重点目標とプロジェクト 【第3章】

(1) アジア地域の成長力を引き込み、
日本の経済成長に貢献する
「ゲートウェイ九州」を形成する

アジアをはじめとした世界諸国と
九州内相互における人流・物流・情報交流の増進

産業経済活動・地域間交流を支える
広域交流ネットワークの形成

離島・半島、中山間地域等における生活圏との
交通アクセスの確保、小さな拠点の形成

都市部におけるコンパクト化と
周辺等とのネットワーク形成、都市機能の充実・強化

九州の美しい自然環境や景観等に配慮した
自然環境の保全・再生

環境問題に対応した循環型社会の構築

(2) 住民の生活を守り、
活力のある地方を維持していくための
地域社会づくりを進める

災害の未然防止や被害の最小化による
災害リスクの軽減

防災・危機管理体制や水資源の確保等における
広域的な連携による安全な暮らしの実現

安全な移動環境の形成

(3) 増大する様々な災害リスクに対して、
柔軟に対応できる強靱な
圏域を形成する

社会資本の戦略的な維持管理・更新と多目的な活用

多様な主体による個性を活かした地域づくり

(4) 社会資本の戦略的な
維持管理・更新を行う

重点目標1:アジア地域の成長力を引き込み、日本の経済成長に貢献する「ゲートウェイ九州」を形成する

○成長著しいアジアとの地理的・歴史的優位性を活かし、ゲートウェイとして選択と集中を図りながら「成長インフラ」を整備し、アジアと九州内相互における人流・物流の増進することにより、日本の経済成長に貢献していく。

1-1:アジアをはじめとした世界諸国と九州内相互における人流・物流・情報交流の増進

課題と目指す姿

- ・アジアの成長力を引き込み九州全体に波及させ、日本の経済成長に貢献
- ・ゲートウェイ機能の強化、魅力ある観光地の形成等国際競争力を高めていく

重点施策

- ・九州内の空港機能強化
- ・港湾の拠点整備、外航クルーズ船に対応するための既存岸壁の有効活用
- ・国際海上コンテナターミナル整備や、アジアへのダイレクト航路網の充実
- ・港湾、空港や背後の物流施設へのアクセス道路、高規格幹線道路・地域高規格道路等の交通基盤の整備等 など

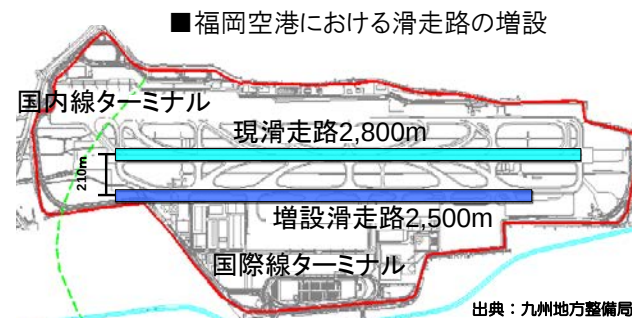
◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○特定都市再生緊急整備地域における国際競争力強化に資する都市開発事業の事業完了数

【H26年度 0 → H32年度 4】

〔具体事例〕 福岡空港整備事業

- ・慢性的に発生しているピーク時の航空機混雑を抜本的に解消するため、滑走路増設事業を推進。また、空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延の緩和等を目的として、国内線ターミナル地域再編事業を推進。



〔具体事例〕 クルーズ船の寄港増や大型化に対応するための博多港の機能強化

- ・より多くのクルーズ客を受け入れることにより地域の活性化を図るため、既存岸壁を有効活用した博多港の機能強化を推進。



1-2:産業経済活動・地域間交流を支える広域交流ネットワークの形成

課題と目指す姿

- ・九州の強みを活かした産業基盤の強化による地域活性化
- ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」など、新たな観光ニーズの取り込み

重点施策

- ・高規格幹線道路・地域高規格道路等の整備
- ・九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の整備
- ・高速道路の利便性を高めるスマートIC等の整備
- ・港湾、空港、鉄道駅等から、その周辺地域への公共交通利便性の向上 など

〔具体事例〕 九州横断自動車道延岡線

- ・御船町辺田見の産業団地において、H22より物流会社が進出しており、H27にも新たに物流会社が開設されている。これらの動きも踏まえて、九州横断自動車道 延岡線（小池高山IC～北中島）の整備を推進。

■北中島IC(仮称) 施工状況



〔具体事例〕 熊本天草幹線道路

- ・三角西港の世界遺産登録に続き、天草の崎津集落の世界遺産登録を目指すなど、新たな広域観光ルートの設定や、観光産業の活性化を図る取組も踏まえ、熊本天草幹線道路大矢野バイパスの整備を推進。

■新天門橋(仮称) 架橋状況



〔具体事例〕 九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）整備

- ・フリーゲージトレインの技術開発を推進し、計画通りの完成・開業に向けて引き続き着実に整備を推進。

■開発中のフリーゲージトレイン



重点目標2:住民の生活を守り、活力のある地方を維持していくための地域社会づくりを進める

- 離島・半島、中山間地域をはじめとする地域の活力低下に対して、選択と集中を図りながら「生活インフラ」を整備し、生き生きと安心して暮らせる環境を形成する。
- 自然環境の保全・再生や都市部におけるコンパクト化、循環型社会の構築を図り、持続可能な地域づくりを推進する。

2-1: 離島・半島、中山間地域等における生活圏との 交通アクセスの確保、小さな拠点の形成

課題と目指す姿

- ・離島・半島や中山間地域で人口減少と高齢化、農林業等の担い手が不足
- ・社会的サービスの低下や地域コミュニティの衰退
- ・生き生きと安心して暮らせる環境の整備

重点施策

- ・道の駅やスマートIC等を核とした「小さな拠点」の形成
- ・地域の生命線となる生活幹線道路の整備
- ・離島航路の就航率向上、離島など航空路の維持、防波堤や岸壁等の整備 など

【具体事例】 山之ロスマートIC整備

- ・九州を支える基幹産業が集積している地域にスマートICを整備することにより、企業進出が加速し、新たな雇用を創出する。

■ 山之ロスマートICの完成イメージ



2-2: 都市部におけるコンパクト化と周辺等との ネットワーク形成、都市機能の充実・強化

課題と目指す姿

- ・市街地の低密度化、公共交通サービスの維持困難化
- ・厳しい財政状況など社会情勢や環境の変化
- ・社会的サービスを享受できる環境を形成

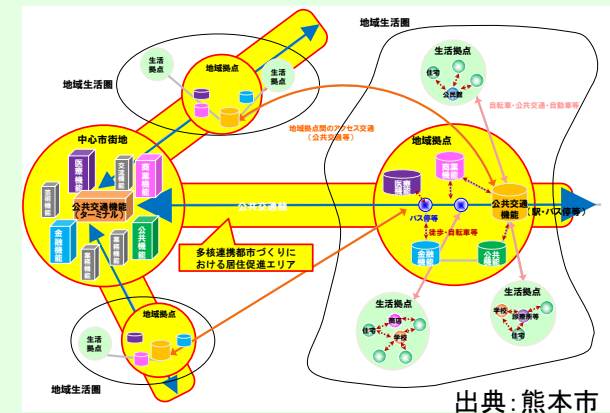
重点施策

- ・都市の集約化に対応した地域の中心拠点などの形成(コンパクト+ネットワーク)
- ・道路や污水处理施設等の整備
- ・環状道路等の整備や交通渋滞対策
- ・道路、駅等のバリアフリー化
- ・住宅・建築物の耐震化、無電柱化等 など

◆重点施策の達成状況を測定するための 代表的な指標(KPI)

○特定道路におけるバリアフリー化率
【H25年度 80% → H32年度 100%】
等

【具体事例】熊本市における集約型
都市構造イメージ



出典: 熊本市

2-3: 九州の美しい自然環境や景観等に配慮した自然環境の保全・再生

課題と目指す姿

- ・豊かな自然環境や魅力のある地域資源を確保
- ・水と緑が豊かで魅力ある良好な都市環境を形成

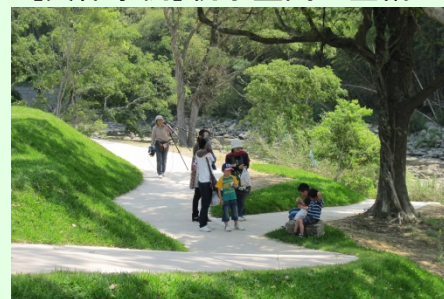
重点施策

- ・水際線や親水空間の整備、景観や自然との調和に配慮したまちづくり、歴史的風致の維持向上
- ・山地・森林や河川等のネットワーク化(エコロジカルネットワーク) など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体
となった取組を実施した都市の割合
【H26年度 35% → H32年度 50%】 等

【具体事例】親水空間の整備



2-4: 環境問題に対応した循環型社会の構築

課題と目指す姿

- ・二酸化炭素の排出を抑えた社会の構築
- ・エネルギー供給体制の脆弱性が深刻化
- ・循環型社会の実現

重点施策

- ・再生可能エネルギーの有効活用
- ・都市緑化、モーダルシフトのための港湾物流拠点の整備
- ・渋滞対策等の道路分野での地球温暖化対策 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○下水汚泥エネルギー化率
【H25年度 約26% → H32年度 約41%】 等

重点目標3:増大する様々な災害リスクに対して、柔軟に対応できる強靱な圏域を形成する

- 増大する様々な自然災害の発生リスクに対して、地域間の連携を強化しつつ、被害を未然に防止するためのハード対策を行うとともに、ソフト対策を適切に組み合わせ、「安全安心インフラ」による国土強靱化の取組を推進する。
- 道路、鉄道、航路、空港において、誰もが安全、安心して移動できるような環境の確保を図る。

3-1 : 災害の未然防止や被害の最小化による災害リスクの軽減

課題と目指す姿

- ・南海トラフ地震津波に対する事前防災、復旧・復興の備え
- ・激甚化する集中豪雨や台風、火山噴火等による多様な災害が頻発
- ・国土強靱化の理念を踏まえ、災害に強い安全な国土を形成

重点施策

- ・河川改修や洪水調節施設の整備や海岸保全施設の整備、排水ポンプ施設の整備、輪中堤や宅地嵩上げ、土砂災害防止施設の整備等のハード対策
- ・災害の恐れのある区間を回避する道路の整備、無電柱化、九州版くしの歯を形成する横断軸の整備
- ・港湾における防波堤、海岸や河川における堤防及び水門等の整備
- ・公共施設、防災拠点等の耐震性能を確保 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○公共土木施設等の耐震化率等

【災害時における海上からの緊急物資などの輸送体制がハード・ソフト一体として構築されている港湾（重要港湾以上）の割合：H26年度 19% → H32年度 81%等】 等

〔具体事例〕 鶴田ダム再開発事業

- ・平成18年7月豪雨により甚大な被害を受けた川内川流域で、同様の降雨が発生しても、洪水被害を軽減するため、再開発事業により既存の鶴田ダムの洪水調節容量を増強。

■再開発により治水容量を増強



3-2 : 防災・危機管理体制や水資源の確保等における広域的な連携による安全な暮らしの実現

課題と目指す姿

- ・減災の視点も重視したソフト対策の充実
- ・洪水に備える「水防災意識社会」の再構築
- ・水資源の確保

重点施策

- ・TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の派遣、防災協定の締結、特定緊急水防活動等による防災体制等を強化
- ・災害事象に応じたハザードマップの整備・普及
- ・緊急避難場所の確保
- ・地理空間情報の整備・活用
- ・ダムの建設や有効利用を推進 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○TEC-FORCEと連携し訓練を実施した県数【H26年度 3県 → H32年度 7県】 等



出典：九州地方整備局

〔具体事例〕 TEC-FORCEの活動（被害状況調査）

3-3 : 安全な移動環境の形成

課題と目指す姿

- ・人優先の安全・安心な生活道路の整備
- ・海上交通での船舶事故の未然防止
- ・誰もが安全に安心して移動できる環境を確保

重点施策

- ・安全な歩行空間の確保、生活道路におけるハンプ・狭窄等の道路整備、安全で快適な自転車利用環境の創出
- ・事故の危険性が高い箇所での重点的な交通事故対策、無電柱化
- ・踏切部における立体交差化 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

○道路交通における死傷事故の抑止

【生活道路におけるハンプの設置等による死傷事故抑止率：H32年 約3割抑止（H26年比）】 等

〔具体事例〕 生活道路でのハンプの設置



出典：国土交通省 道路局

重点目標4:社会資本の戦略的な維持管理・更新を行う

- 予防保全によるメンテナンスサイクルを構築・実行し、適切に維持管理・更新等を行う。
- 協働による地域づくりを通じて、地域住民等の地域への愛着心を醸成し、必要な社会資本整備の選択等への理解増進を図る。

4-1：社会資本の戦略的な維持管理・更新と多目的な活用

課題と目指す姿

- ・建設後50年以上の施設の割合が加速度的に高くなる
- ・社会資本の老朽化対策は急務
- ・厳しい維持管理予算、地域条件を踏まえた社会資本の機能確保
- ・中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図る

重点施策

- ・長寿命化計画に基づき、道路橋等の日常点検等による戦略的な維持管理・更新
- ・道路空間の多機能化・オープン化やダム周辺等の多目的活用
- ・ETC2.0による料金施策やスマートIC増設 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

- 個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）の策定率
【各施設分野において100%を目指す】

[具体事例]

社会資本に関する日常点検、定期点検の実施

- ・構造物の計画的な点検により、早期に損傷を発見し、重大な損傷に至る前に対策を実施。
- ・点検・診断技術の向上を図るため、メンテナンス技術者育成研修を開催。

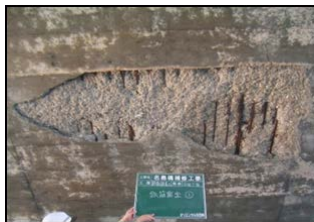
■メンテナンス技術者育成研修の様子



[具体事例] 個別施設の長寿命化計画の策定

- ・今後、急速な老朽化の進行が見込まれる社会資本を適切に維持管理し、良質な状態を維持するとともに、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るために、長寿命化計画を策定し、戦略的な維持管理・更新を推進する。

■橋梁におけるはく離鉄筋露出と補修



出典：九州地方整備局



4-2：多様な主体による個性を活かした地域づくり

課題と目指す姿

- ・行政のみで計画から維持管理まで行うことが困難化している
- ・道守などにおける清掃、花壇づくり等、利用者が維持管理に関与する意識が醸成、多様な活動主体の参画による協働の地域づくりが必要

重点施策

- ・無電柱化等による美しい道路空間の形成や街並みの保全・再生等
- ・公共空間を舞台とした多様な主体の連携による地域づくりを促し、地域の愛着心の醸成 など

◆重点施策の達成状況を測定するための代表的な指標(KPI)

- 水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体となった取組を実施した都市の割合（再掲）【H26年度 35% → H32年度 50%】 等

[具体事例] 美しい道路空間の形成

- ・筑後吉井伝統的建造物群保存地区において、無電柱化を実施することにより、美しい道路空間を形成し、町屋や土蔵が連続する町並みなど、歴史的風致を形成している特色ある景観を向上。

■無電柱化(電線共同溝)



[具体事例]

公共空間を舞台とした多様な主体による地域づくり

- ・道に関わる様々な活動を通じ、道への関心や愛護の心を育み、道を守り育てるため、長崎県雲仙市の「小浜温泉57」など「道守」と呼ばれる人々・団体が活動。

■道守活動(道路美化)

